平成22年度医療安全シンポジウム（西部地区）

市民・患者の医療参加

ひまわり会の患者さんと共に
(人工肛門、人工膀胱の会)

平成22年10月13日

遠州病院　病院長　水上　泰延
ひまわり会会長　水谷　要一

略　歴

昭和52年5月　愛知県稲沢市民病院

昭和56年10月　遠州病院外科

昭和60年4月　名古屋大学第一外科
（腫瘍グループ）

昭和62年4月　遠州病院外科

消化器外科医として癌の手術に係わる

直腸癌：直腸切断術＋リンパ節郭清
人工肛門造設

外科医として癌の根治性追求
人工肛門造設は二の次

しかし、患者にとっては一生もの

ストーマ患者さん

肉体的または精神的に大変な苦労

誰に相談して良いのか
何処で相談したら良いのか
どうしたら良いのか

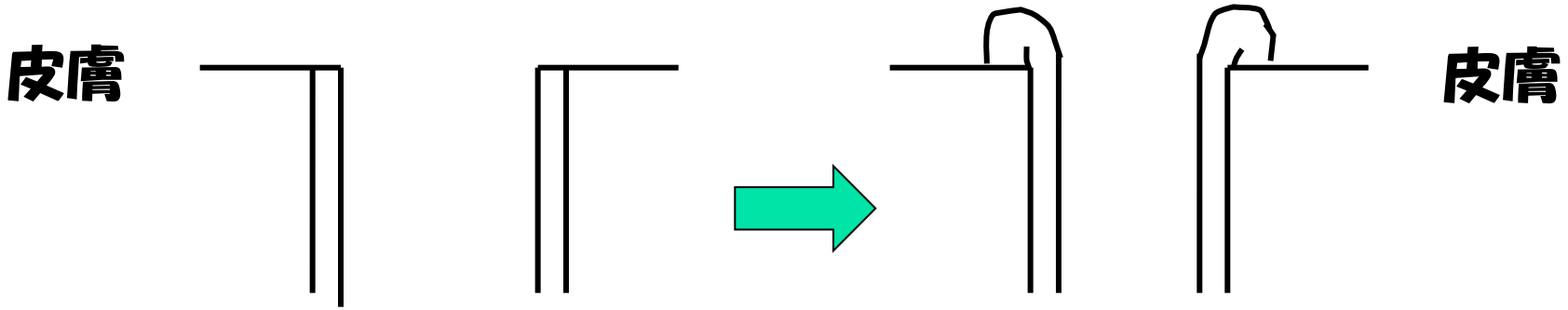
医師・看護師

ストーマに対する関心が不十分
手術後の指導が不十分

昭和62年9月　ストマ療法士(ET)
昭和62年11月　愛知県山下病院見学

人工肛門造設：

体形の考慮
立位・座位での適正な位置
人工肛門の形、大きさ
パウチ



愛知県山下病院（桔梗の会）

昭和61年より既に人工肛門の会設立

【背　景】

ストーマ保有者はストーマからの排泄を他人に知られたくないため、一人で悩み、引きこもっていました。そこで、同じ境遇の人が集まり、悩み事を相談したり、一緒に旅行に行ったりしよう

当院でも人工肛門の会を設立しよう

心配事

人工肛門の場合

もれ　臭い
音　　人の目（入浴）

人工膀胱の場合

もれ
人の目（入浴）

装具の紹介や生活指導等のアフターケアの充実を図る必要がある

ひまわり会

（人工肛門＆人工膀胱の患者会）

昭和63年　ひまわり会発足
平成元年　年1回の総会と一泊旅行
伊勢と伊豆交互
病院主導（会員 60名）
平成8年　泌尿器科医師
平成17年　病院長
平成18年　会員主導（会員 36名）
年会費　2000円
ボランティア
年1回の総会、勉強会と一泊旅行

水上泰延・水谷要一 提供

総　会

1．事業報告・会計報告
2．近況報告
3．講演：ストマ療法士
　　外科医・泌尿器科医
　　管理栄養士
4．前年の旅行のスライド
5．パウチ業者の展示

1泊旅行

- 患者間や職員スタッフとの親睦を図る
- 集団でお風呂に入れば怖くない
- ストマケアに関してお互いに情報を共有する
- ETより直接指導を受ける
- トイレに困らない
- 個人旅行に繋がる

ひまわり会会則

【目　的】

　オストメイト相互の親睦を図りながら必要な情報交換をし、装具などに関する知識を高めることによって日常生活を快適に過ごすこと、あわせて、早期に社会復帰が出来るよう援助し合うことを目的とする。

目的を達成するための活動

1. オストメイト相互間及び病院職員との親睦会の実施
2. 装具やセルフケア、福祉などに関する学習会や情報交換会の実施。
3. 会員相互扶助
4. オストミーを受けられる患者さんへの相談役
5. オストメイト相互間の弔事

役　員

会長　　1名（会員）

副会長　3名（会員）

会計　　1名（病院事務）

顧問　　2名(外科医師、泌尿器科医師)

平成元年　10月　中伊豆

水上泰延・水谷要一 提供

窓辺

ひまわり会

水上 泰延

人工肛門、人工膀胱とは肛門を含む直腸や膀胱を摘出した後、便や尿の排せつ口（ストーマ）として腸管を用いて腹部に固定したものである。直腸がんや膀胱がんなどの病気の告知以上にストーマ造設の告知が与える精神的な影響は計り知れない。

ストーマ保有者はストーマからの排せつを他人に知られたくないため、一人で悩み、引きこもっていた。そこで、同じ境遇の人が集まり、悩み事を相談したり、一緒に旅行に行ったりしようと昭和六十三年に前病院長と「ひまわり会」を設立した。またストーマ外来を新設し、専門のストーマ療法士を置いてストーマケアの悩みに対応した。

年一回の一泊旅行は、我々医療スタッフや会員の触れ合いの場となった。会員同士お互いのストーマを見せ合い、先輩は新人にケアの仕方を教えた。一緒に風呂に入り、背中を流したり、お酒を酌み交わしたり、カラオケに興じたりして、楽しい一日を過ごした。旅行に出る楽しみを覚えた会員は自信をつけて、積極的に海外旅行や温泉に行くようになった。

一年前からは新たな試みとして、手術前に不安でいっぱいの患者さんを会員が訪問し、体験談を語るボランティアを始めた。手術前後に不安が取り除けたという話を聞いて、会員の温かさや連帯感、主体性を感じた。新病院の開院時は、会員から十台の車いすを寄贈していただいた。

ひまわり会を結成して早十八年が経過する。この長い歴史の中で、いろいろな人との出会いがあった。情報と心情を伝え合うことで障害があっても、それを乗り越えて、明るく、前向きに人生を楽しむことができることを教えてくれた。

ひまわり会は遠州病院が誇る宝である。

（遠州病院院長）

平成19年5月25日　静岡新聞

水上泰延・水谷要一 提供

ひまわり会より車いす贈呈（平成19年）

水上泰延・水谷要一 提供

平成20年10月25日　吉良温泉

水上泰延・水谷要一 提供

名古屋空港見学

水上泰延・水谷要一 提供

77歳（現在）　男性

61歳時血尿認めた。精査の結果膀胱癌と診断された。
その後9年間内視鏡的治療を受けた。
70歳時に膀胱全摘＋回腸導管手術が必要と説明
（手術1か月前）

説明を受けた時の心境：癌・手術による死を考えた。
人工膀胱の事は理解できず。

入院後の心境：手術に対する不安
周りの患者さんより人工膀胱がどんなものか薄々わかった
人工膀胱の位置決める時、この部位に袋がつきますと説明されるも理解できず

手術後の心境：この袋と一生付き合うのか
これからどのような生活になるのか不安

水上泰延・水谷要一 提供

癌告知による精神症状

不安段階→適応段階

適応障害（抑うつ、せん妄）

人工膀胱に対する精神症状

現実的に捉えづらい
将来への不安

患者さんによるボランティア

水上泰延・水谷要一 提供

オストミーを受けられる患者さんへの相談役

【流　れ】

1．手術前にひまわり会の会員から話を聞きたいかどうか打診

2．希望あり・・外来看護師・病棟看護長
→担当事務→ボランティア

3．日程を合わせて面談

面談の実際

手術前日または前々日に来訪

患者さんからの質問

- 手術は痛いかどうか
- 術後経過はどうか
- 手術後どうなるか不安だ
- うつ伏せで寝る癖があり心配だ

患者さんの不安に体験談を踏まえて説明

- 手術は麻酔がかかっていて痛くないですよ
- ズボンを下ろして、実際のパウチを見せ、日常生活に心配ないですよ
- 皆さん、旅行へ行ったり、プールに行ったり、普通に日常生活を送っていますよ
- 元気になったらぜひ家族で旅行をしましょう
- 患者の家族にも私自身こんなに元気に生活していることをお話
- 今後の生活には自分でパウチ交換が必要

手術後にも数回面会を行う

不安が少しでも取り除くことが出来たのではないか。

患者さんよるボランティア活動が患者さんの不安を取り除く

病院主導から患者さん主導

ストマ外来
週1回

ET (Enterostomal　Therapist)
非常勤　1名
ＷＯＣ(創傷・オストミー・失禁)
看護認定看護師　1名

ひまわり会は私の宝です。

御清聴ありがとうございました。

水上泰延・水谷要一 提供